

とよた日本語学習支援システム構築記念シンポジウム

「多文化共生社会をめざして—日本語学習支援が創る地域社会—」

衣川 隆 生

- 【日 時】平成24年3月28日（水）13：00～16：40
（開場12：30）
- 【会 場】豊田産業文化センター小ホール
- 【共 催】豊田市・名古屋大学
- 【後 援】文化庁、愛知県、財団法人自治体国際化協会、社団法人日本語教育学会、公益財団法人愛知県国際交流協会、公益財団法人豊田市国際交流協会
- 【定 員】240名（先着順）参加費無料

委託を受け、平成23年度までの4年間、豊田市内において日本語教室の運営支援、日本語能力判定や人材育成、eラーニング等の構築・運営を行うとともに、他地域・国への発信と連携にも取り組んできた。

また国レベルにおいても、文化庁から平成22年5月に『生活者としての外国人』のための標準的なカリキュラム案が示されるなど、多文化共生の見地から、増加する外国人住民への日本語学習支援の必要性が認識され、さまざまな取り組みが行われている。

本シンポジウムは、とよた日本語学習支援システムの4年間の取り組みの概要、その成果と課題を紹介するとともに、地域社会における多文化共生施策の取り組み、国レベルでの日本語学習支援の取り組みを共有し、今後、国、産業界、教育界、地域コミュニティの連携のあり方を検討することを目的に開催されたものである。

1. はじめに

豊田市は平成20年度より豊田市内に在住、あるいは在勤の外国人が円滑な日常生活を営むために最低限必要な日本語能力を習得することを支援する包括的な「とよた日本語学習支援システム」の構築、普及に取り組んできた。名古屋大学留学生センターはこの事業の

とよた日本語学習支援システム 構築記念シンポジウム
多文化共生社会をめざして
—日本語学習支援が創る地域社会—

経済や社会の機軸が大きき動きを見せる際、外国人を取りこく状況もずいぶん変わってきました。それと同時に関心する日本語学習支援も大きな業績を上げています。
とよた日本語学習支援システムでは平成20年度から4年間、多文化共生社会への関心をめざした包括的な日本語学習支援のしくみを構築してきました。本シンポジウムでは、本システムの成果と課題を多文化共生、日本語教育、行政（国・地方）、産業界の視点から見つめ直し、今後の日本語学習支援の方向性を導きます。



日時 平成24年3月28日（水）13:00～16:40
会場 豊田産業文化センター 小ホール（愛知県豊田市小坂本町1-2-5）
定員 240名（先着順） **参加料** 無料 **開場** 12:30

共催 豊田市、名古屋大学
後援 文化庁（中核中）、愛知県、財団法人自治体国際化協会、社団法人日本語教育学会、公益財団法人愛知県国際交流協会、公益財団法人豊田市国際交流協会

お申し込み
E-mailまたはFAXにてシンポジウム参加の旨を明記し、①氏名、②所属（個人の場合は市町村名）、③連絡先（電話番号・FAX又はメールアドレス）をご記入の上、以下欄までお申し込みください。
例先：E-mail totoyasymjpo@gmail.com / FAX (052)789-4700
締め切り：平成24年3月23日（金）

とよた日本語学習支援システム公式ホームページ <http://www.toyota-j.com/>

プログラム（敬称略）

開会 13:00～13:15 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ▼あいさつ ・豊田市長 大田 健彦 ・名古屋大学 理事・副学長 杉山 孝行
第1部 13:15～14:55 (1時間40分)	<ul style="list-style-type: none"> ▼基調講演「多文化共生社会をめざして—国と地方の動向—」 ・池上 眞三（名古屋大学名誉教授） ▼報告「『生活者としての外国人』のための日本語教育」 ・片川 俊章（文化庁文化政策課長） ▼報告「とよた日本語学習支援システム構築・運営の成果」 ・北村 裕人（とよた日本語学習支援システム システム・コーディネーター） ・村上 真子（名古屋大学留学生センター教授）
休 憩 14:55～15:10（15分）	
第2部 15:10～16:40 (1時間30分)	<ul style="list-style-type: none"> ▼パネルディスカッション「日本語学習支援における『連携』を語る」 日本語学習支援の枠組みの普及を図る上で見えてきた課題を共有し、それを解決するための手がかりを、多文化共生社会機運（池上）、産業界（片上）、『生活者としての外国人』のための日本語教育（西屋）の3つの視点から討議を行い今後のビジョンを模索する。 ・コーディネーター：衣川 隆生（名古屋大学留学生センター准教授） ・パネリスト：池上 眞三（名古屋大学名誉教授） ・パネリスト：村上 真子（日本経済団体連合会社会情報本部長） ・パネリスト：西屋 幹子（元東京女子大学教授）

会場アクセス

豊田産業文化センター 小ホール
(愛知県豊田市小坂本町1-2-5)

- ・名古屋鉄道「豊田市駅」西口から徒歩7分、又は、愛知環状鉄道「豊田駅」西口から徒歩5分。
- ・駐車場は混雑が予想されますので、できるだけ公共交通機関でお越しください。



お問い合わせ

豊田市 総合企画部国際課 TEL: (0565) 34-6963 E-Mail: kokurai@city.toyota.aichi.jp	とよた日本語学習支援システム 事務局 (名古屋大学留学生センター 1F105号室) TEL/FAX: (052) 789-4700 E-Mail: totoiawase@toyota-j.com
--	---

とよた日本語学習支援システムとは
『とよた日本語学習支援システム』は、トヨタ自動車株式会社からの寄付金1億円による「豊田国際交流基金」を原資とする、多文化共生社会への寄与を目的とした包括的な日本語学習支援のしくみである。豊田市が平成20年度より名古屋大学留学生センターに事業委託し、日本語教育を担う日本語能力判定や人材育成、eラーニング等の構築・運営を行ってきた。行政・大学以外にも様々な組織や個人が「連携」の取組を通じて支援されている。

2. シンポジウム内容

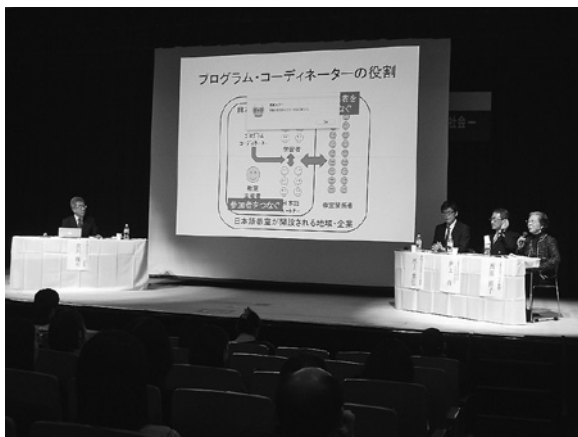
シンポジウムは太田稔彦豊田市長、杉山寛行名古屋大学理事の挨拶で幕を開けた。第1部ではまず池上重弘静岡文化芸術大学教授による「多文化共生社会をめざして－国と地方の動向」と題した基調講演が行われた。講演では多文化共生社会を実現するために国・地方の2つの観点からどのような取組みが行われているのかが紹介され、そこから多文化共生社会をめざした日本語学習支援にはどのようなことが期待されるかの提言がなされた。次に、早川俊章文化庁文化語課長から「生活者としての外国人」のための日本語教育施策、指導者に対する支援の取組みが紹介された。第1部の最後には北村祐人とよた日本語学習支援システム・コーディネーター、村上京子教授からシステム構築の目的、4年間の実績と成果、さらにそこから見えてくる課題と展望が示された。

第2部では、池上重弘教授、井上洋日本経済団体連合会社会広報本部長、西原鈴子元東京女子大学教授をパネリストとして迎え、衣川隆生准教授をコーディネーターとした「日本語学習支援における『連携』を語る」と題したパネルディスカッションが行われた。日本語学習支援の枠組みの普及を図る上で見えてきた課題を共有し、それを解決していくために産学官民がどのような連携ができるのかについて多文化共生社会推進（池上）、産業界（井上）、『生活者としての外国人』のための日本語教育（西原）の三つの視点から活発な討論が行われた。

3. アンケート結果から

シンポジウムには約200人が来場し、このうち4分の3にあたる152名からアンケートを回収することができた。参加者の内訳では比率の多い順に日本語学習支援ボランティアが30%、大学教員が14%、行政職員が10%であった。シンポジウムの開催が年度末の平日であったため産学官民のうち「産」の比率が少ないが「学官民」の割合が多いことは期待通りの結果であったと言える。また85%の人がシンポジウム全体の内容を「大変参考になった」「参考になった」と回答しており、また記述回答からも「自分自身の仕事にも役立てることができるようなアイデアがたくさん出てきて有意義なシンポジウムだった」とあるように、今後の活動に参考になる内容が提供されていたという評価を受けている。

また、第2部のパネルディスカッションでは、コーディネーターからの発題に対して、アンケート用紙に提言を記入するという方式をとった。その結果、70名の方から今後の事業のあり方について提言が寄せられた。これらの提言は後援となった文化庁とも共有し、今後のシステムのあり方、国との連携のあり方の参考にしたい。



パネルディスカッション風景